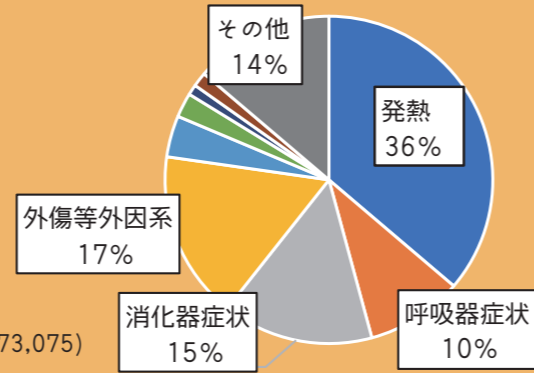


お家で病気の子どもを見守るために

発熱 その1 最も多い相談から考える

電話相談の症状として一番多い「発熱」の相談。でも、背景は保護者によって違います。よくある 保護者の Q と相談員の対応を通して、相談の背景と対策を考えてみました。

主な症状の内訳 (2022年度 年間集計 n = 73,075)



よくある質問 「どうしたらいい？」



聞きたいことは様々です。「熱を下げるには、どうすれば?」「〇℃もある高熱で大丈夫?」「どうしたら、明日までに治る?」「救急車を呼んだ方がいい?」「今何をしたらいい?」「受診にいくので、行かなくていい?」など

この相談に対する相談員の対応

質問内容	相談員の頭の中	相談員の思考												
「今、お子さんはどうしていますか? 眠れそうですか?」 <small>相談員</small>	<table border="1"> <tr> <th>経過観察</th> <th>注意して経過観察</th> <th>すぐに受診</th> <th>救急車を呼ぶ</th> </tr> <tr> <td>全身状態 良い</td> <td>保たれている</td> <td>良くない</td> <td>悪い</td> </tr> <tr> <td>他の症状 ない、または軽微</td> <td>または軽微</td> <td>繰り返す嘔吐 ひどい下痢や腹痛 呼吸が苦しい 特別な基礎疾患</td> <td>けいけん・意識障害</td> </tr> </table>	経過観察	注意して経過観察	すぐに受診	救急車を呼ぶ	全身状態 良い	保たれている	良くない	悪い	他の症状 ない、または軽微	または軽微	繰り返す嘔吐 ひどい下痢や腹痛 呼吸が苦しい 特別な基礎疾患	けいけん・意識障害	状態を想定して判断
経過観察	注意して経過観察	すぐに受診	救急車を呼ぶ											
全身状態 良い	保たれている	良くない	悪い											
他の症状 ない、または軽微	または軽微	繰り返す嘔吐 ひどい下痢や腹痛 呼吸が苦しい 特別な基礎疾患	けいけん・意識障害											
「お子さんの手や足は熱いですか? 冷たいですか? 顔は赤いですか?」 <small>相談員</small>	<p>暖かくして、休ませる 解熱剤は待った方がよい</p> <p>冷やす 水分を取る 解熱剤は効きやすい</p> <p>受診 精査 治療</p> <p>手足が暖かい 顔が赤い 汗をかく → 高熱持続</p> <p>寒気 震え 手足冷たい → 元気がない</p> <p>治療・解熱</p>	今の状態把握 見通しとケアのタイミング												
「今、寝具は? 衣類は?」 <small>相談員</small>	「この保護者にできることは?」	具体的なケアの方法を 相手に合わせて助言												
「受診した時に、何て言われましたか?」 「熱以外に症状はありますか?」 <small>相談員</small>	病名も参考に考える	対応の確認												

図: 熱が上がっていく時の状態と対処方法

推測される保護者の状況 わかっていないから不安な気持ちに

- 体温計の温度に気を取られて、子どもの様子がわかっていない
- 子どもの手足を触って、熱の上がり具合を把握するという発想がない
- 子どもが暑がっていても、衣服や寝具を減らそうとしない
- 病院に連れていくことや薬を飲ませることが、ケアより重要と思っている
- 早く熱を下げないといけないと思っている
- 高熱は脳に悪影響と思っている
- 受診したらすぐに良くなると思っている

あれほど大丈夫と言ったのに、夜間に受診!なぜ?

【医療者】

- 問診する
- 診察する
- 方針を説明する

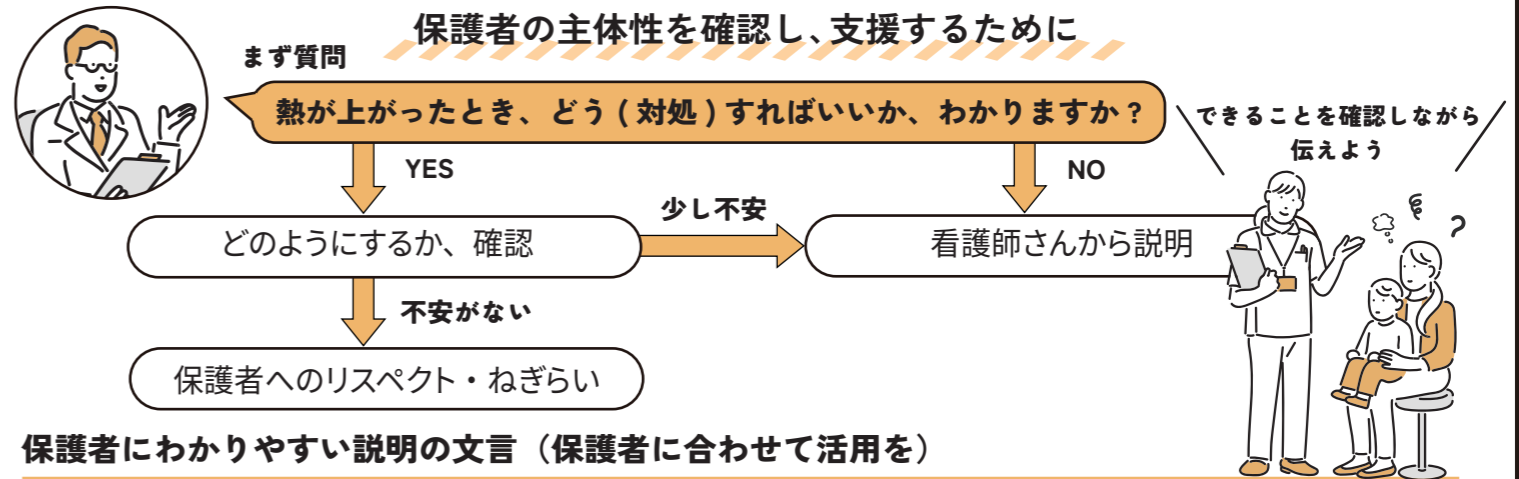
【保護者】

- 質問に答える
- 診てもらう
- 方針を聞く

診療の場では、**保護者は受け身**です。医師が一生懸命説明すると、保護者は医師を信頼し、中には依存的になる人がいるかもしれません。保護者が子どもの状態を把握しケアするためには、「**自分がどうしたらいいか**」主体的な考えと行動が必要と感じます。依存的な人は、「大丈夫」と言ってくれる人を求めるのではないのでしょうか。

医療現場において

家庭で落ち着いてケアするために



保護者にわかりやすい説明の文言 (保護者に合わせて活用を)

発熱の理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 熱は、免疫の働きで体が病原体と闘っている状態なので、急いで熱を下げる必要はない。 ● 病原体との闘いが始まっているので、乗り越えるには時間がかかる。 ● ぐっすり眠ることが、治るために大事。
子どものケア	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の子どもの手に触れて、熱い・冷たいの見方・感じ方を確認。 ● 熱の上がり始めは手足が冷たく、上がりきると温かくなり放熱するので、様子に合わせて衣類や寝具を調節する。 ● 食べ物は無理強いしない。水分は、どのようなものをどのくらい飲めそうか確認。
再受診の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 熱が高くても、飲める・眠れるなら、病気に負けてないので、家で見ていい。 ● 飲めない・遊ばない・眠れない・変にぐずる・熱以外に心配な症状があれば、〇〇を受診、または #8000 に連絡。
リスペクト・ねぎらい	<ul style="list-style-type: none"> ● さすがです。 ・しっかり、できてる。 ● 子どもにとって、誰かがそばに居てくれることが病気と闘う力になる。 ● 保護者も疲れるので、家事はあとでもいいのでは? ● いっしょに見てくれる人はいますか? など

今回は、その2. 発熱時の坐薬・お薬について